

熊本は素晴らしい環境に 恵まれていると改めて感じています。



これらを当たり前だと思っている。私は東京ではミネラルウォーターを買っていましたよ。阿蘇と天草と、山と海と二つの国立公園を持っている県は他にはあまりないですよ。純朴な魚も

いてよく釣れますしね(笑)。今回の計画を作る時に、「こんなに恵まれた地域をもっと良くしなければならぬ」とは大変です」と、東京から来ているある会社の工場長さんに勧められましたよ(笑)。

水俣市民が心を一つにしたことが前進です

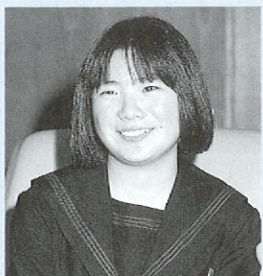
金刺 水俣から来ました金刺です。水俣病患者と一緒に手すき和紙の工房を開いています。その他にも町おこしの一つである「水俣・花の会」の事務局長をしており、年に一度中尾山で祭りなどを催しています。そんな訳で、患者さんたちとも市民の方々とも付き合いがあるんですが、よく耳にするのが「そろそろ水俣は果から見捨てられるんじゃないか」ということです。また、水俣の問題を解決する前の問題として、市民感情がどうも正常になっていないような気がするんです。そこを解消しないとうまくいかなんじゃないかと思っています。

知事 水俣は熊本の一番南の端にあつて多少寂しいと思っていらいっしやるのかもしれないですが、県は決して見捨てたりしませんので安心してください。水俣病については三十六年も経ってまだ解決できないのは残念です。また、金刺さんのおっしゃる通り、水俣病認定を受けた方、まだ受けていない方、その他の市民というように、三様の市民感情がしっくりしていないのも残念

なことです。

昨年十一月、水俣で「環境・創造・みなまた'92」が開催され、患者さんたちも積極的に参加されました。これは新しい動きだと思います。私は正直申しまして、これまで水俣には自分たちでなんとかしなければならぬという気迫が欠けているんじゃないかと思っていたのです。それが自分たちでなんとかしなければならぬという気運が盛り上がりつつあるようで、とても嬉しく思っています。

水俣病補償問題に関しては和解が一番良いと思いますが、国がそれに乗ってこない状況です。チツソは地元



「子どもたち」の代表として
川部 岬さん
御船町在住

う一つは「躍動するくまもと」を築く確かな基盤づくりです。

これまでも長期計画を作ってきましたが、どちらかというと基盤整備といったハード面に重点が置かれていました。もちろん社会資本の整備を進めていかなければならない。中でも交通基盤の整備は重要です。これを進めることにより県内各地域、あるいは産業教育、文化のそれぞれが大きく浮かび上がって来るでしょう。

しかし、大事なことは、県民が互いにいたわり合いを持って初めて心豊かな明るい社会ができていくということです。生活者の視点、それぞれの人生

熊本の人はおいしい水と空気を当たり前と思ってる

川部 私は化石を掘るのが趣味です。御船川でたくさん亀や木の化石を見つけてきました。そこからいろいろ調べていくうちに町のことが分かってきておもしろいのです。

知事 熊本には歴史的・文化的な遺産がいたるところにありますね。上益城から八代郡にかけては通潤橋や霊台橋など素晴らしいものが残されています。その橋を作った石工たちが皇居の三重橋を始め、浅草橋や日本橋など東京の主だった石橋を手掛けているんです。歴史をさかのぼっていくと熊本は改めて素晴らしいところだという気持ちが出てきます。私たちの祖先が残してくれた熊本ですからもっと良くしてい

にはなくてはならない企業です。これを支えていながら早く解決していかなくてはなりません。

金刺 昨夏、九州では初めて国際ワークキャンプをしました。外国の若者たちに水俣のことを知ってもらうことができたのと同時に、地域の皆さんにも大変喜んでもらえたようです。今年も続けようと思っています。地域のための国際交流を目指しています。

女性も生きがい求めて社会進出しつつ

山下 熊本市内で、プラスタコーデーイネーター、つまり左官をしています。入社したての頃は不安でしたが、周りの方が優しい方ばかりなので、やりがいがあるし、この仕事に就いて良かったと思っています。

知事 プラスタコーデーイネーターとはずいぶんハイカラな名前ですね。山下さんは、手に職を持つというお手本を示されたわけですが、皆が皆上の学校に行くのではなく自分のやりたい仕事

を持ったそれぞれの方々の立場が大切にされるようないろんな仕組みも考えなければなりません。ハード面も大切だがソフトの面も大切なんです。病院の建物があっても立派な看護婦さんや医師がいて初めて初めて病院の機能は働く。保育所の中で保育さんが喜んで働いてくれる。これが大切なんです。それから、ボランティア。これからは県民の皆さんがいろんな局面でボランティア活動して下さることが必要になってくると思います。それを皆さんにお願いするには県は何をしなければいけないかを考えています。

きたいと思ってるわけですよ。

喜多 私はずっと大阪の人間なんです。妻が天草の出身で、常々田舎暮らしをしてみたいと思っていたんです。ある雑誌で熊本の「Uターンアドバイザー制度」のことを知りまして、そのお世話で熊本に就職が決まりました。天草や阿蘇でのドライブや山歩きなどを楽しんでいるところです。熊本は自然が近いし、空気もおいしいですね。
知事 喜多さんは、Uターンアドバイザー制度で熊本にいらしたんですね。東京や大阪に暮らしたことのある人は、熊本の素晴らしさが分かるのだけれど、熊本で生れ育った人は、おいしい水、澄んだ空気、豊かな自然とその恵み、

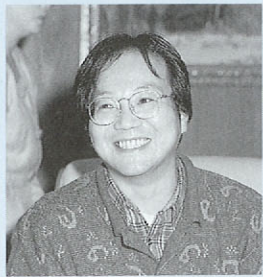
知事 水俣はある意味でまだ「陸の孤島」みたいなところがあるんです。現在工事中の八代から海岸線を通って鹿兒島に至る「南九州西回り自動車道」が完成したり、新幹線が開通するようなどことになれば水俣・芦北地区も力がついてくると思います。金刺さんにはこれからも水俣市民の「融和の接点」として頑張っていただきたいですね。

をするというのが素晴らしいですね。例えば、日本建築の宮大工とか職人さんたちは日本文化を守る一役を担っていらっしやると思います。

それにしても、左官さんとは、女性では珍しい職業ですね。新しいことに挑戦するという気持ち素晴らしい。山下 皆から仕事は大変だろうと聞かれますが、そんなことはありません。もっと多くの女性に建築の仕事に就いてもらいたいと思います。今までは女



「働く人々」の代表として
喜多 信弘さん
不知火町在住



「若者」の代表として
金刺 順平さん
水俣市在住